



# PATHO News



## 自治医科大学 病理診断部

http://www.iichi.ac.jp/pathology/ No.53 2022. 4. 13

### 病理診断部 業務実績報告 (2021年 1月~12月)

◎組織診	
受付件数	14,964件
作製ブロック数	67,826個
HE染色枚数	83,876枚
特殊染色枚数	43,773枚
術中迅速診断件数	900件
術中迅速診断ブロック作製個数	1,703個
センチネルリンパ節診断件数	164件
センチネルリンパ節診断ブロック作製個数	582個
未染スライド薄切枚数 (免疫染色用・外注用など)	28,340枚

◎細胞診	
受付件数	14,851件
迅速件数	263件
総染色枚数	33,081枚

◎蛍光抗体法	
件数	468件
染色枚数	3,005枚

◎剖検 (病理解剖)	
件数	21件
うち院外剖検	6件

◎電子顕微鏡検査	
件数	313件

\* 前年から増加

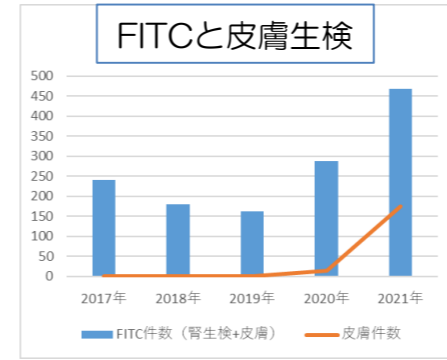
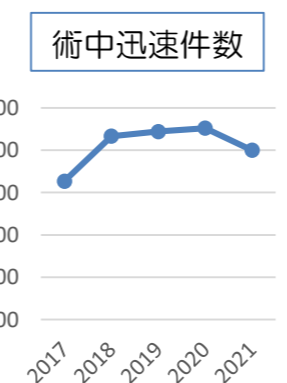
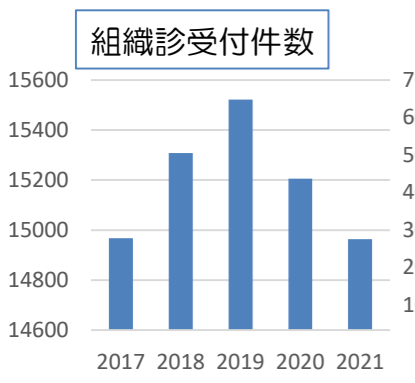
■組織診の受付件数及び術中迅速診断は減少しましたが、外注依頼件数は遺伝子検査の普及に伴い増加しました。また作製ブロック数とHE染色枚数も増加しました。

■免疫組織化学検査において、乳腺などの診断・治療に必要なER、PR、Her2染色およびFISH検査は年々増加しています。

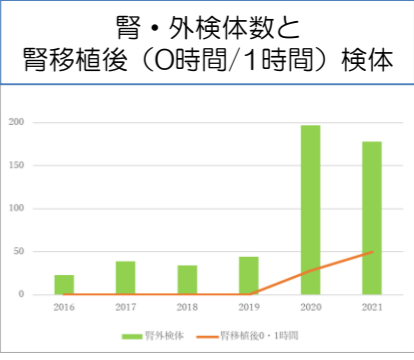
■電子顕微鏡検査は微細形態解析技術を駆使し、ウィプル病、カルタゲナー症候群等稀少な病気の病理確定診断に寄与しています。心筋生検においては細胞内小器官の観察、異常蓄積物の分析、心筋細胞の変性等の観察を行います。また腎生検においては、慢性腎炎などの病理診断補助、慢性腎不全患者の増加に伴う腎移植後の拒絶反応・免疫抑制剤の影響の有無などパンフ分類に沿った観察を行い、病理確定診断に多大な貢献をしています。

◎免疫組織化学 (IHC)	
IHC件数	3,588件
IHC染色枚数	19,476枚
ER・PR*件数	514件
Her2*件数	560件
FISH*件数	128件
EBER1*件数	186件

\*ER・PR、Her2：酵素抗体法  
\*FISH：蛍光 in situ ハイブリダイゼーション  
\*EBER1：EBウイルス関連リンパ腫、胃がん等の確定診断のための検査



■FITC (蛍光抗体法) は、2020年11月から皮膚生検を実施しています。皮膚生検は2020年に14件実施、2021年は、175件実施し、全FITC件数の36%を占めています。



■電頭検査では、移植腎の移植直後の0時間検体と移植後1時間検体が増加しています。

### 退職のごあいさつ

病理診断部を3月いっぱい退職したスタッフからのご挨拶です。



菊地 みどり 技師

皆さん、お世話になりました。44年間、長いようであつという間だったようにも感じています。

入職当初は、新人4人が一度に入って、先輩方(4人)大変だったと思いますが、根気よく教えていただき、感謝に絶えません。当時は、薄切用のメスは替え刃ではなく、毎日2回ぐらい研ぎ器で研いで使っており、時間がかかり、検体数は今よりずっと少なかったのですが、20時ぐらいまで毎日残業していましたね。

今は、染色装置、ガラス印字機など自動化が進んで、標本作製が迅速にできるようになっていますが、そのぶん以上に検体が増えてきて大変だと思います。

ISOが始まり、そして続いてまたまた大変ですが、お体に気をつけて、頑張ってください。

### 病院だより掲載 (第34号 令和4年3月発行)

細胞診検査 (喀痰検査) が、病院だより「検査の豆知識」に掲載されました。喀痰細胞診の重要性や診断に検査に有効な喀痰について詳細に記されています。



### 細胞診Webカメラ導入

細胞診検査室にWebカメラが導入されました。提出された全検体の性状と作製した患者名を記したスライドガラスを1枚の写真に写し込み、写真を病理診断支援システム内の取込み、検体の取り違え防止に努めています。



検体受付および剖検受付時間 8:30 ~ 17:15 (内線 2257)  
注) 土曜日は剖検のみ受付 (15:00まで 3連休以上は院内向けポータルサイト参照) (内線 2257 or PHS 18218)

ニュースレター PATHO News 病理診断部 No.53 2022. 4. 13  
発行 : 福嶋敬宜 (ふくしま のりよし)  
編集 : 飛田野清美 (ひだの きよみ) 柳田美樹 (やなぎた みき) 小瀬川順幸 (こせがわ じゅんこう) 杉本真 (すぎもと まこと) 佐藤沙弥香 (さとう さやか)